114
A 704

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

謹啓

山之城祐長ヲ以進退節度ノ指教ヲ仰クノ後六月廿四日彼レ断然不應ノ決答ニ及ヲ依テ廣津弘信先発崎陽ニ帰リ電信ニ憑テ指教ノ如何ヲ問ヒ其指教給フアラハ直ニ舩ヲ返シテ之ヲ送ニ報スルノ約ナリ然ルニ弘信發程後一旬ヲ過クト雖モ未タ迎艦ノ来ルアルヲ見ス惟フニ是指教未タ至ラス故ニ弘信上京事由ヲ直奏シテ以テ未後ノ節度ヲ仰クニ至ラシカ若シ然ラハ其指教如何ハ廟堂諸公ノ方寸ニ在テ固ヨリ敢テ問然ス可キニアラスト雖モ一二進退時機ニ関スルノ大要ヲ撮ニ上陳スルヲ左ノ如シ

本地ノ形行如旧知信発錨ノ際ニ臨ミ訓導書ヲ
致シテ別遣堂上来初此ニ抵ルノ報アリ而シテ
今月望ニ魯ントスルモ尚其聲響ヲ聞カス適是
ヲ通事輩ニ探聞スルニ曰有其説不知其真否又
曰非現有別遣之来則難保証ト惟フニ弘信退帰
ニ際シ訓導遷ニ此説ヲ以テ報シ来ルモノハ我
進退寛急ヲ窺フノ機智ニ過キス縦令別遣ノ早
晩下来スルモ皆然革面我盛意ニ答フル如キハ
到底夢見ス可カラス是皆所謂閃弄変幻ノ術ヲ
逞フスルモノニシテ要之ニ逸ニ在テ労ヲ待ノ
黠策ナルハ論ヲ待タサル可シ
別遣下来ノ事ハ五月八日訓導京ヨリ帰リ来リ
書記生ト接話中已ニ之ヲ吐露セリ當時彼カ術智

ノ此ニアルヲ察シ第三公信ニ上陳スルカ如キ
稍豫防ノ意ヲ注クト雖モ其後面詢我意ヲ開陳
シ且彼カ疑問ニ明答セシ事アリ彼弥我異志ナ
キヲ知ルト雖モ尚一二ノ変通ヲ欲スルモノナ
キニ非ス於是一旦拒接ノ言ヲ喫ハシテ我氣勢ヲ
挫キ徐ニ別遣下来ノ説ヲ投シ其地位ヲ改メ断
ニアラス又不断ニ非ルノ変幻ヲ用ヒ我ヲ回顧
セシメテ己カ意ヲ逞フセントスルモノナリ今
ヤ我嚇怒ヲ起シ實接ヲ張リ投豆奮進其勢破和
ニ出ントスルヲ見ハ彼レ或ハ訓導周旋ノ壮撰
ニ托シ或ハ一二大臣ノ私裁ニ付シテ面ヲ革メ
来ルヿモアランカ雖然我無為空滞和顔柔容其
自悔ノ心ヲ起サシメント計ル如キハ則チ所謂

函丈而メ道ヲ行クモノ也豈可得乎

彼ノ変ハ此ニ出ルモノハ既ニ未萌ニ察スル所アリ而シテ彼ノ所革假約以来内政紛擾処議多端其外襲ヲ懼ルヽノ念平常ニ百倍セリ而シテ我征韋ノ兵撤還セシヨリ清人ノ誇誕諷動之ニ加ハリ終ニ此ニ倚頼心ヲ結ヒ以テ我ニ背反ノ因ヲ起スニ至ルカ雖然彼カ狡獰清國近今ノ失躰克ク萬國ニ當ルノ力ナキヲ知ラサルニ非ス清人モ亦到底之ヲ保護スルノ難キヲ知ル然リ而シテ彼レ諷シ是レ頼ルハ固ヨリ只自國ニ利アランヲ謀ルノ為ノミニテ真心ノ憑諾ニ出ルニ非ス之ヲ空憑虚諾ト云フモ亦可ナリ茂等深ク之ヲ實地ニ察スル所アリ即弘信ノ上伸スル所アランカ

此ニ贅セス是事茂等失敗ノ餘憶測孟浪ノ言ニ似タリト雖モ決テ然ルニ非ス閣下英明冀クハ高閣ニ束ネサランヿヲ

現地ノ形行既ニ前ニ述ル所ノ如シ故ニ廟堂序次擧手ノ緒ニ就クノ議ニ決スル時ハ茂ノ空滞モ亦徒留ニアラス而テ無良辱命ノ身ト雖モ堅忍持重以テ其幸會ヲ待チ罪ヲ償ヒ辱ヲ洗フニ於テ亦其時機アリトイフヘシ雖然若シ其背約ヲ問ハス反信ヲ顧ミスシテ徒ニ無為留滞以テ此舘ヲ主持スルカ如キハ理勢万々不可ナリ又茂ニ於テモ万々辞スル所ナリ彼既ニ不許施ヲ以テ答フ彼レノ不許施ヤ即チ前約ヲ履行セサルノ意ナリ故ニ別ニ和好ヲ保スルノ道アリヤ否ヤ問ヘハ則曰ク無之ト是實ニ欺隣國辱ニ派負侮慢

如此而ノ晏然受之以テ彼カ野性ニ任スル時ハ未後
唾面ノ辱亦慮ラサルヘカラス茂ノ狷狹豈克之ニ耐
シヤ縱令能ク之ニ耐ルモ國辱ヲ取ル倍甚シキヲ如
何セン而シテ之ニ耐ヘサレハ稟命ニ違フ事體ノ至
于此茂ノ不良不明ノ所致ト雖モ是皆彼カ禽心獸意
ニ出サルハナシ冀クハ之ヲ諒セラレンヿヲ
今命ニ先シテ預シメ無為空滯ノ不可ヲ贅議ス
ルハ喋々タルニ似タリトイヘ𪜈實ニ國躰國
辱ニ関スル𠃊重大ナルヲ以テノ故ノミ若シ一
日空滯セハ一日ノ國躰ヲ貶シ十日徒留セハ十
日ノ國辱ヲ加フ故ニ茂歸京即時斧鉞ノ責ニ任
スルモ一日ノ空滯ヲ欲セス斧鉞ノ責一身ニ止
リ空滯ノ辱國家ニ關ス公私軽重自ラ判然若シ

含垢空留荏苒以テ機ヲ失スルニ至テハ何ノ時
カ背約反信ノ事証ヲ擧テ之ヲ詰論セシヤ故ニ
速ニ彼カ反背ノ事証ヲ留メ断然引退スル時ハ
我ニ於テハ守約ヲ以テ進ミ背約ニ依テ退ク名
義灼然國光ヲ墜サヽルニ庶幾カラシヤ是茂カ
無為ノ空滯ヲ欲セサル所以ナリ
前件固ヨリ至大茂ノ進退モ亦至重 屬ス若シ
彼ノ別遣下未等ノ閃弄ニ傾念シ以テ引退ノ機
ヲ外ス時ハ實ニ現地ノ失體言フヘカラサルモ
ノアリ別遣下未ノ形況ハ前文ニ悉セリ是彼カ
機ヲ轉シ端ヲ反メ茂等ヲ牛羈馬縻以テ進退度
ナカラシメントノ術智ニ出テ其依憑スヘカラ
サルヤ固ナリ彼若シ真ニ昨非ヲ自悔シ交好ヲ

欲スルノ意アレニ於テハ茂等引退ノ後ト雖モ
彼自ラ善言以テ我ヲ誘導スルニ至ラン此時我
在館ノ屬負ヲシテ臨應セシメ彼ヲシテ自悔懇
請ノ証ヲ出サシメ而シテ再渡以テ事ヲ理スル
モ亦難キニ非ス此則主客勢ヲ轉シ逸ニ在テ労
ヲ待ニ近シ以是觀之則神速引退スルハ名義ヲ
存シ体貌ヲ尊ミ而シテ彼カ悔恨ノ情ヲ誘致ス
ルノ一端ナラン
茂カ進退ノ如何ハ内外飛耳ノ關節ニ係ル抑茂
現官ヲ承乏シ輸誠ノ所致悉サヽルニ非ス豈料
シヤ彼カ狡獰我好交惓々到底異志ナキヲ察シ
忽チ口ヲ服制ニ藉リ前約ヲ烏有ニ附セントス
茂固ヨリ狷狹ノ資而シテ今辱ヲ小醜ニ受テ憤

怒孰々自ラ抑ル不能躍身投足直ニ其巣穴ニ入
テ此反信無禮ヲ面折セントス雖然大臣殿下明
命ニ曰今汝ヲ派遣スルハ成ヲ萬一ニ試ムル
ニアラス彼若シ義ニ背キ信ニ反スル時ハ我豈
措置ナカランヤ敢テ回顧スル莫レト是實ニ万
鈞ノ命終始軫念豈其レ自重セサルヲ得ンヤ故
ニ抑怒忍辱以テ進退ノ節度ヲ仰クヽノ茂等必
他日ノ措置廟堂之ヲ不問ニ措サルヲ信スルナ
リ伏テ祈ル　閣下英明此微衷ヲ垂鑒シ玉ハン
コヽヲ
右陳スル所即弘信ノ口頭ニアリト雖モ別遣下
未ノ説アルヲ以テ或ハ廟議之カ為ニ延滞シ進
退節ヲ失スルヲ恐ル故ニ敢テ威嚴ヲ冒シテ此

贅言ヲ陳ス嗚呼茂苟ニ専對ノ任ニ當リ変故ニ
横遭シテ空手引退スルカ如キ實ニ之ヲ為スニ
忍ビ雖然背反如此手預如彼固ヨリ茂カ口舌ノ克
クスル所ニアラス故ニ憤ヲ抑ヘ愧ヲ含テ敢
テ進退ヲ仰ク閣下英明此情ヲ憫察シ彼狀ヲ
洞見シ以テ速ニ節度ノ裁制ヲ給ハン丁企望懇
願ノ至ニ堪ヘス恐惶謹白

明治八年七月十六日　外務少丞森山茂

外務卿寺島公閣下

第八号

七月十六日暴雨強風ニテ後同十七日不意ニ到着上
全知事聖旨東萊ヘ到着ニテ当十九日午後
別差一回入致共任承承安ヲ以面談ニ及ハセル
処果シテ高議一轍把住ヲ轉ー場ヲ更めんとするの
興業ニ用ひ来りし月之ニ在ー後日三回ニ後判義ニ
昨日全福殊ヘ去年つきせり次第別紙ヶ号附録在
掲載為可詳知ニ
一右後日三回後到中全知事ニ動止ヲ探ラセリ処
当方別差ニ十出り掛ト稟ル速ニ答ヲ且別ニ答意
ヲ会ニ在りし也ヲ以ニ不ス見百事旧例ニ因ル業ハ
ヨリ一ハ其の十分ニ拒回人ハ先年来別差ヲ以去節ヲ
強ヒ使ヲ以ニ対ヲ面ニ渡海セーヲ以テ之ヲ答ヘ

なれども素より貴人なる事例なる事なれば於万例に人物
に上等の家に已に七十殊に老耗なれば何事も別段なる
御扶助なれども漸く一度なれば代を継しめ一要なるに彼
已に許施せしその後なるに及ひ為れは移るに硬移なるに
非ずその辞柄を述さんとの為無とめ形略と陳老耗人を
別遣し新に為れば又万断に為さるの様来るは不
待論也

一 同人儀一昨夜来り来明日八鍵を我中に及午前
金福殊を以我に高向尋和問一昨日来業に引
渡りゆえ尤昨日疲稿なれば早く上度いとの事に
付其人の時なれば是も例なる数なる故為保護すべこのさま
るは万論なれども同人は五月旧暦なり来年来東我一昨夜
命中梅毒なる為四五日なれども

計りの事去月廿四日拒捕なる次第に及ひ来別段浦
瀬事態生ず同様せしめく我断然なる繁を案し急に
角同人別紙の儀上陳いたしの如今に御達なるべし
一 別紙は昨上来の我に対し雑斗なる儀中出ずるなる
彼れ無所為を通くるの多度をいなしの事なる待
罪なる罪状なる何の辞柄を捧ずべきとは言なる推
来なるに及背なる事柄を告げの事共人を失ずに
為る次投書し如今なるべし
一 新彼色を所なるの言文なる日彼確なるして万動
或は別段なる為なる稿しは旦一般例を勧めの上我国なる幸福
なる為なるべし一の商議故万好止日或なる程と好文を使ず
なる国中なる実今然に屈なる程なる外国人なる来
迫あらん事を懸念なるべし一生我と硬和を

時ニ臨ミ之ハ交分ニ為ス可キ我国体ヲ維持シ進退
時宜ヲ失ハサルヲ以テ術策ニ於テ遺ナキヲ期スルヲ
一 形勢好易崔生ヲ以テ其使命ヲ果シ其事業ヲ成就
シテ帰国ニ及ヒ一旦ハ其人物ヲ賞セラレ一旦ハ其人物ヲ放免
等人ヲ不可ラサルヲ中ニ少セラレテ一旦ハ其人物ヲ
ヲ以テ昭例導使ヲ以テ之ヲ召連出発シテ論
旨セシメ之ヲ以テ其言其行偽ハリ極メテ形勢ヲ為シ終
ニ存守ヲ出獄シ一ツヨリ外ニ方法ヲ以テ及復
ヲ礼実ニ可要事ニ

六月廿五日ヲ以テ外務大臣ヨリ形像等為
第拝受ヲ以テ八番ニ益高キノミヲ以テ弥凌海
ヲ招キ終ニ事征ヲ以テ其ノ時ヲ失ハ一平一列廟之
遂ニ以テ愚意ヲ外ニ出ス平ニ陸海弥作者系意

具ヲ以テ上申ヲ上ス已ニ西郷隆盛ヲ派遣シ以テ何分
速ニ西郷隆盛ヲ派遣シ一度ヲ企望ニ至ル為ス

八年七月

外務卿寺島公閣下

外務大丞森山茂

二伸 時今ヲ探知ハ彼ヲ為ス一度ヲ以テ
漂民ヲ送ル朱子ヲ為ス倫子ヲ以テ何分ニ
到来ヲ候ヲ以テ何分ニ此ニ直接ニ西郷隆盛
ヲ参ス八月下旬ニ到来ニ而ハ
弥彼ノ国議ヲ聊カ引延ス事ニ而ハ
時機ヲ誤リ一方倫ヲ以テ
片時ヲ速ニ西郷隆盛ヲ使ハシ
三伸 対馬西海家村漁民七名ヲ月七日朝鮮国ニ
漂流ス八月廿五日ヲ以テ護送一度ヲ来リ

例ニ倣ヒ為取扱ヒ送致ス
一ハ其漂民共多ハ一一面後彼ノ取扱ヒを
ヒ変ハ何ニ為ス変リヲ俟ス

八号附属

記

貴国對馬州西津漂民七名
但問情記附
右以假式茲護送故宜轉致之于
貴館長公之事
乙亥六月十七日　　訓導玄昔運　印
　　別差玄濟彝　印
外務省七等書記生住永　公前

漂民七名問情記

對馬州西津漁民七名同駕壹船本月四日出漁洋
中同五日忽遇東風船具傷損制旋失便申時轉漂

于一屋則浦人救濟人給俱全乃
貴國巨濟境古多大浦也賜給糧料次ニ護送今茲
到館不勝感謝云々

乙亥 六月十七日

記

一我國對馬州西津漁民七口
但問情記添
右茲所護送正領之故宜轉致之于東萊府使公之
事

明治八年七月十九日 大日本館長 印

七月十七日別遣堂上金知事名継運字聖始正一品結銜
東萊ニ着セシ趣ニテ来ル十九日就館ス可キ
ヨシ語學助教住永友輔ニ左ノ書狀ヲ
差越セリ

友輔三代官 公前

積年阻懐不須説ㄱニテ此時庚炎
公候平安ナサレマスルカ羨リ度ゴザル僕
ハ朝廷命令ニテ意外下来致シ昨夕
抵府致シマシタレ𪜈七十老翁ガ路儘
難振ゴサルニヨリ問憐奈何調攝イタ
シ十七日間下往イタソフト存シマスル
ニヨリ左様羨知ナサレマセイ為先安

信ナリ氏兼リ度存シ數字暫上

乙亥六月十二日　聖始金知事

訓道ヨリハ何等ノ摸様モ不申出ニ付其動止ニ着目候処弥十九日午後一時訓道別差ヲ伴ヒ三名入館候ニ付元御用所別面謁所ヘ誘引七等書記生住永辰妥并ニ住永友輔ヲ以テ始終三回面晤セシメシ接話ノ要領如左

第一回

知事今般拙者別遣トシテ下来ヲ命セラレシハ両國緊重ノ事件ニ付朝廷ヨリ特ニ理事官公ヘ面議可致トノ儀ニ有之候間右御取次頼入度候

書記生特ニ正官公ヘ面晤ヲ請ハル、ハ何等ノ趣意ニ候ヤ

知事曾テ訓道ヨリモ申出候通リ日本ト八到底交ハラサル可ラサル國柄ナルハ不待論ヿユヘ宜シク面議ヲ遂クヘシトノ義ニ有之候

書記生是ハ意外ノ事ヲ兼ルナリ御用件ハ既ニ先月廿四日貴國ヨリ断然拒接ノ決答ニ及ハレ其後尚為念別ニ和好ヲ保スルノ道アリナト相尋子ラレシ処無之トノ答ヘニ付弥理事不成ナルヲ以テ副官公先發貴國背約反信ノ状ヲ上奏相成タルヿハ已ニ訓道ニモ熟知ノヿニテ正官

公ノ滞館ハ公務取纏メノ為ニテ迎艦着
次第退帰ナサル、ハ勿論ノ処今日別遣
下来更ニ面議ヲ請ハル、ハ貴國ニ於テ
何カ前議ニ反シタル模様ニテモ有之
テノヿナルヤ
知事訓導別ニ朝廷ノ模様変リテノヿニ
モ無之則チ信義ヲ盡シ総テ旧例ニ倣
ヒ好交イタシ度トノ底意ナリ尤貴國
々制政正ノ義ハ我ノ與關スヘキ義ニハ
無之候得トモ新服製ニ付テハ追々
訓道ヨリ申出候通リ我國不得止
ノ情アリテ相接致シカタク且新例
ヲ叛ムル片ハ我國ノ福ヲ去ルニヨリ

総テ旧ノ如ク弊行相成タキトノ意ニテ
其趣ハ曾テ御答ニ及ヒタレト尚別
遣ヲ以テ事情申出ヘシトノ命ニヨリ
老躰ヲ不厭罷下リ候儀故拝晤ノ
義偏ニ周旋頼上候
書記生今兼ル所ニテハ曾テ訓導ヨリ答出ヲ
レシ趣意ト毫モ相変リ候義無之然
ラハ正官公ヘ面晤ヲ請ハル、モ畢竟
無益ノヿカト被存候
知事ナル程前後一議ナカラ折角朝廷ヨ
リ別遣セラレシヿ故猶御懇話申義ニ
候間御何可被下候
書記生然ラハ其趣申出ヘシ偖只今見受候得

ハ訓道ニハ兼テ両國間ニ障碍セシ崔
在守ノ従類ヘ采吉ヲ召連レ入館セラ
ルヽノミナラス本廳ヘ立入居ルハ如何
ナル訳ナリヤ右采吉等ノ為我國人民
廿余名罪ヲ得未タ放免不相成モノモ
有之貴國ニテモ既ニ其罪状ヲ審知シ
久シク入獄セラレシヿニテ今般外務大
丞書契中ニモ此等ノ事掲ケアルハ熟
知ノ通リ御用落成ノ上ハ夫々處分可
有之ハ貴國ノ義務ナルニ今如此挙ア
ルハ甚タ以テ我ヲ蔑如セラルヽヿニア
ラスヤ
訓導 貴國ヲ軽蔑スルトハ何等ノヿニ

候ヤ右ハ僅々タル軽輩ニテ且拙者
召使ヒ候モノヲ館中ヨリ彼是被申
候筋ハ有之マシク候
書記生 是ハ以テノ外ノヿナリ軽輩トテモ罪人ハ
罪人ナリ足下ノ召使ハル、ハ即チ貴國
ニテ公然役セラルルナリ若シ私ニ使ハル、
トナラハ益相済マサルナリ併シ其使フト
使ハサルトヲ論スルニ非ス如此奸細ノ輩
立入候テハ又々館民中従罪ヲ負フ
モノ出来センヿヲ恐レ預シメ之ヲ保護
スルハ我義務ナリ且如此モノニ公用ヲ
命シ来ルヿモ我ニ於テハ決シテ
接受スベカラズ

知事夫ハ畢竟小事ナレハ兎モ角モ正官
公面接ノ丁御周旋祈ル所ニ候
書記生美知致シ候併シ采吉一件ハ拙者限リ
聞置カタシ序ニ正官公ニモ可申上候

第二回

書記生御来意具ニ正官公ヘ上申候処教意ニ
我輩履約守信渡海致シタルハ貴國
官弁ニ相接シ事ヲ理センカ為ナリ然
ルニ料ラス我服制上ニ喙ヲ容レ誹議
論難五ヶ月ヲ相持シ到底我カ変
通ス可ラサルヲ知テ最後拒絶ノ決答
ニ及ハレ貴國背約反信ノ事証顯然
タル上ハ我輩口舌ノ能ク了スル処ニア

ラス因テ副官ヲシテ此旨ヲ帰奏シ自
今モ迎艦渡来次第退帰ノ場ニ立至リ
シハ訓道モ委シク美知ノ丁ナリ抑貴國
最後ノ決答ハ實ニ両國好交成否ノ大
關節ナルハ已ニ五月十七日訓道ニ面
付セシ條辨書中ニ悉セリ而シテ断然
拒接ノ答アルハ仮令信義ニ反スルトモ
是非拒弁スヘシトノ國議決定ノ上ナ
ルハ不待論然ルニ今又別遣トカ何ト
カ委員ヲ派シ前後一議ヲ以テ面接ヲ
請フトハ甚タ解セザルナリ昨日之ヲ
擯シ今日曖昧議ヲ求メテ猶我服制
ニ干預シ其強ユヘカラザルヲ強ントスルカ

是我輩ヲ寵絡シ隣國ヲ侮弄スルナリ
今ヤ両國交好ノ議已ニ不成ト決シ
上奏セシ上ハ仮令貴國前議ヲ革メ
来ル共我輩辱命ノ身ニ在テハ其實
行擘ラザル時ハ決シテ相接ス可ラス
是理勢ノ當然ナリ況ヤ堂々タル別遣
委員トナラハ東莱府使ニ接スルモ同様
ナリ其面接ハ必ラズ禮貌ヲ備ヘテ之ヲ
待タサル可ラス是貴國ヲ崇敬シ又我
朝命ヲ重ンスル処ナリ然ルニ其服色ハ
已ニ貴國ノ擯スル処將タ何ヲ以テ面接
セン中貴國既ニ其面接ノ不能ヲ知テ
更ニ試ミ来ルモノハ何等ノ底意ソヤ

別遣ハ極老ノ人ト聞ク私情ニ於テハ
甚タ氣ノ毒ナレト公理ヲ如何セン今曖
昧面議スルモ事ニ益ナキノミナラス弥端
ヲ滋クスルニ至ラン之ヲ要スルニ貴國已
ニ拒絶ヲ以テ荅ヘ今又官弁ヲ派シテ
前後一議ヲ述ントスルハ實ニ無益ノ
了ナリトノ義ニ御座候
知事事柄ヲ兼リ候ヘハ丁度左様ニ
モ可有之候ヘ共両國ノ和好ハ早
晩必ス調熟ニ相成候ヿ故断絶
ニ及候抔ハ決テ無之ヿニ候今古稀
ノ老躰ニ以テ此大事ニ特遣セラレ
遥ニ下来セシニ面接不叶時ハ朝

命如何ス可キ而シテ禮ヲ以テ待
ツトノ丁ハ實ニ御尤ト存候得共
已ニ服色ニ付テハ紛議決セサル
内ハ公然相接シカタク就テハ平服
ヲ以テ御逢ヒ被下候様相願度
存シ候

書記生

便服ノ面晤ハ貴國ノ派負ヲ軽ンス又
我朝命ヲ重シセサルノ義ニテ決テ美引
有之マシク且公幹ノ要領ハ訓道熟知
ノ丁故尋問アレハ了然タル可シトノ丁
ニ候

知事

訓道ヨリモ逐一美リ候ヘトモ猶面
晤ヲ得事物判然イタシタル上ハ拙
者モ少々心得有之丁ニテ便服面晤
モ不叶ハ先ツ内面謁ニテモ御許シ被
下候様盡力頼入候

書記生

糸吉一件正官公ヘ申上候処貴國ニテハ
弥前約ヲ履行セサルニ決シ已ニ使負ヲ
拒弁ニ及ヒタル上ハ罪人ヲ放免シ傲然
廳ヘ召連候共差構ヒナシトノ見込ナ
レハ左モアル可キ丁ナリ是即貴國ニテ
ハ此公幹已ニ不成ト落着シナガラ日
本トハ交ハラサルヲ得ス又前後一議
ナカラ別遣面接ヲ請フ抔ト其言行ノ
反復表裏ハ何事ナルヤ實ニ無信不
義ト云フ可シ併シ貴國ノ為ス所ハ責

ムルニ及ハス我ニ於テハ如此罪人此大
日本館ヘ一歩モ踏入ルヽヿヲ許スヘカ
ラス左館人何レモ此モノト交接スヘカ
ラサル旨達ス可シトノ嚴飭ナリ且別
遣面晤ノヿモ三十日以前ナラハ容易
ナリシニ理勢ノ歸スル所斷念アル可シ
トノヿニ候
知事餘事ハサテ置便服面晤不叶ハ何
卒内面謁ノ所一入盡力賴入候
書記生是迎モ理勢甚タ如何ト存シ候得共
折角再三申聞ラレ候ヿユヘ申シ試ム
可ク候
第三回

書記生便服面晤ノ義申上候処夫ハ別遣ニモ
似合ヌ不見識ナル御所存ニテ其内面
謁等ノヿハ益貴國ノ威光ヲ貶セラル
ヽナリ仮令國王殿下自ラ来リ相接
ヲ乞ハルヽトモ禮ニ非スシテハ決シテ不
接先刻モ申ス通リ事已ニ不成ニ決シ
其旨我朝廷ニ復命セシ上ハ必ラス他
日ノ御措置ヲ待テ進退セサル可ラス
奉使ノ身ニアリテハ實ニ兩國ノ為慨
歎ニ不堪ト雖モ是又不得止ヿナリ今
日別遣面接ノヿ素ヨリ我ノ望ム處ニ
テ禮貌ヲ備ヘ厚ク相待チ共ニ懇議
ヲ盡ス可キハ已ニ貴國ヨリ此服色ニ

批難ヲ容レ我カ相接ヲ拒マル、ハ即
我ヲ作スルニ非スシテ貴國自ラ作セ
ラル、ナリ別遣ノ朝命ヲ重ンセラル、
モ我朝命ヲ重ンスルモ同前ナレハ宜シク
此意ヲ傳致スヘシトノ了ニ候
知事訓導ナル程内面謁等ノ了ニ付御論
御尤ニテ國王自ラ来ルモ禮ニ非スシ
テハ不相接トハ至極ノ理ト存シ候
何レ明日今一應入館致シ候心組
ニ付猶宜敷御周旋頼入候
書記生正官公ハ訓道ヘモ宜シク可申入様トノ
了ニテ何レ不遠一應面晤ノ上相告ヘキ
仔細アレハ其節ハ報知次第入館有之度

トノ了ニ候
訓導何時ニモ入館可仕候ヘトモ正官公
御退歸比ハ拙者上京若シクハ當任
ニ不居合様ノ了モ可有之哉ト存候
別差モ家事ノ内情アリテ近日上京
イタシ候
右ニテ畢ル
本日三回ノ談判同問同答頗ル言語多端ニ
渉リ候得共彼カ言フ所ハ已ニ先般訓導ヨ
リ決答申出候意ト少シモ違ヒ無之服色ハ
勿論新例ニ係ルモノハ相拒ミ候意味確然
ト相見候ニ付背約及信ノ語ヲ以テ再々相
詰メ候時ハ夫ハサウデハアレト何分旧例云

云ト直ニ他ノ話シニ避ケテ更ニ顧リミス詰ル
処曖昧相持ノ主意ト存シ候

住永辰妥

七月二十日陪通事金福珠金正植両人
金知事玄訓道ノ意ヲ以テ出廳候ニ付
即七等書記生住永辰妥ヲ以テ面接
セシメ候要略如左
福珠金知事玄訓道被申付候ニハ昨日
理事官公ヨリ兼リ候御論談ノ事理
及ヒ別遣堂上トアリテハ東萊府吏ノ
相接モ同様ナレハ禮貌ヲ備ヘズシテハ
面接スヘカラス別遣ヲ敬スルハ貴國ヲ

敬スルニアリトノ丁猶夜来三思熟考候処
理勢一々御尤ニテ一言可申上義無之然
ルニ今般下来之朝命モ矢張リ旧式ニ
依テ取扱ヒ候様トノ事ニ候ヘハ何分
新服色ニテ御面接被下候テハ自己ノ
違命ニ相成實ニ當惑仕リ候甚タイ
カヽナカラ此情ヲ以テ兎モ角今一應便
服拝謁ノ儀御願申上御聽許ニ相成
候義ナラハ御回答ハ後刻兼リ候テモ
宜シク候得トモ若シ如昨到底禮貌ヲ
備ヘスハ相接不相成トノ義ナラハ今日
ニモ其趣キ直ニ上啓不致シテ難叶丁
ユヘ何卒即答希上候此段篤ト御依頼

可申トノ義ニ御坐候

辰妥

理事官公ノ約ヲ履ミ千里ノ海ヲ越ヘ来ラレシハ貴國官員ニ相接懇議セシ為メナリ然ルニ不料之ヲ拒マルヽハ即貴國ノ有心故造ヨリ出ル所ニシテ決シテ我ヨリ擯スルニアラス昨日モ御答ニ及ハレ候通リ事已ニ不成ニ決セシ上ハ曖昧相接ハ不致トノ事即確乎不動タリ又其都表ヘ啟聞トカ何トカハ固ヨリ我ニ關スル事ニアラス子ハイカ様トモ随意タル可シトノ事ナリ

福珠然ラハ其趣帰リ報スヘシ偖理事官公ニハ弥々近日御帰國可相成義

辰妥

迎艦着ノ上ハ早晩御帰國ノ筈ナリ

右ニテ畢ル

候哉

住永辰妥

第九号

別紙下来候ニ付ハ本文ハ本年分ニ付高五万俵宛
ニ付事と為ス相成一旦其事務殊ニ其の別紙金
部事務ニ付事務ニ付事務ニ付仮住所ニ安方ハ無之理事及
之ニ一朝ニ付待ち秋部事ハ無之ニ付秋ハ乃ち
中月ニ仮中出小ニ月狀ハ何等ニ我ハ乎と為ス尋ニ
何の小ニ為ニ中ハ共面接ニ為ス叶ハ狀ハ出来ハ事と
ニ付ニ者ハ為ニ者ハ当ハ二号ニ通異ニ付ハ改ニ至ニ陸
海陸ハ中ハ改制ニ事ハ到底協議ニ為ル事
くと為ニ至ル我ハ内向ニ考国ニ激怒ニ恐レ
上下ハ騒キ度ニ為ル陸ハ四ハ兵ハ金部事ニ於テ
ハ何ル別ニ公ニ為ニ公ニ為ニ部事ニ於テ
ニ形況ニ仮ニ為ニ仮ニ為ニ唯ニ為ニ来
ニ形況ニ仮ニ為ニ仮ニ為ニ都ニ程仮ニ

外務省

[illegible]

八年七月二十五日　外務少丞森山茂

[illegible]　外務大輔寺島宗則殿

[illegible]

七月廿三日別遣堂上金氏ヨリ左ノ書翰ヲ致セリ

一号

友輔

住永　両公前上

数日間

公候平安ニアラレマスルカ兼リ度ソンシマスル僕ハ困憊莫甚テゴサリテ悩ミイタシマスル奇別ヲスルモ別儀デコサラス今日コソ状啟封裝イタシマスルニツキ一翔イタセバ左右間回報ヲ見マスルニツキコノ縁由ヲ正官公ニ通シ下サレマシテ回示ナサレ下サルヽラ千萬ラタノミ申シマスル餘不備上

乙亥六月廿一日　別遣堂上聖始金知事印

二号

住永書記生ヨリ回答セシムル左ノ如シ

不圖接使書本日狀啟封發一翔閒左右回報下末云公之狀啟非我之所関公幹之事貴國已以斷然不可許施確答則貴國自應有意之在而然公亦所詳悉也本日之使書僕不能了其示意惟公之英明内省熟慮則情事自判然矣冀諒之餘悉面謁拜復

明治八年七月二十三日　住永七等書記生印

金知事公前